

打楽器コンツェルト……………A・ジョリベ

第一章 Robuste

第二章 Dolent

第四章 Allegrement

10. ビオラ独奏

西下 みゆき

ソナタ(第一番) 作品一二〇より……………ブラームス

第一章 Allegro appassionato

11. フルート独奏

若林 有子

詩 曲……………C・T・グリフス

12. バイオリン独奏

益田 吾郎

無伴奏バイオリンソナタ(第二番)……………イザイ

第一楽章 前奏曲

第三楽章 サラバンド

〔横組〕

同声会主催 昭和五十七年三月卒業生

演奏会おわる

同声会が主催して行っている毎年四月の新卒業生演奏会も、各位のご協力のお陰で回を重ねること今年で十回め、昨年(五十六年三月卒業生)から出演者も大学からの推薦者に限ると改めて、演奏日もそれまでの五日間を三日間に短縮し、さらに声楽の日・ピアノの日・器楽の日と区分を明確にした処にわかに入場者も増大し、いよいよこの演奏会の評価を高めている。今までのように五日間も演奏会の期日を要し、誰れでも出演できた頃はお客も自分の関係者が終

ると挨拶して帰ってしまったものだが、前述の方法に改めてからお客が終りまで聴いているようになった。これが本当の音楽会である。

〔「同声会会報」第三二四号 昭和五十七年七月 一六頁〕

(三) 会員の研究発表助成

昭和五十七年二月四日の常務理事会において、定款改定に伴う事業の追加について話し合われ、積極的に公益の実現を計るために新規に二つの事業を加えることが決定した。一つが会員の研究発表助成であり、もう一つが次の(四)項に取り上げる音楽に関する講習会の開催である。

研究発表助成事業は、同声会員が自己の研鑽の成果を発表するために演奏会を開催する場合、同声会が演奏会の事務手続きおよび事務処理を担当し、支援することを目的とした。諸般の理由により昭和六十二年度をもって終了したが、その間、十五件の演奏会がこの助成を受けて開催された。

ここでは、事業計画書、マネージメント第一号の演奏会の報告記事、開催された演奏会の一覧および年度別の収支決算書を掲載する。

定款第五条第四項 会員の研究発表の助成

1 目的

会員が研究発表会リサイトを開く場合、会場の予約をはじめプログラム、チケット、チラシ等の印刷、他、それに必要な一切の業務を実費をもって行ない会員の研究発表に援助を与え容易にするものである

2 方法

本人より演奏会を開催するために必要な事項並に希望、予算(費用)等を取り演奏開催までの一切の業務を本会の主旨に賛同す

る音楽事務所に依託して行なう

必要な事項として

会場（収容人員、場所、費用等

プログラム

チケット

ポスター、チラシ

内容、程度、数量、費用等（印刷）

チケットの金額発売等について その他

3 手数料

手数料は一件七〇、〇〇〇円とし、五〇、〇〇〇円を同声会の依託する音楽事務所に支拂うものとし、二〇、〇〇〇円を同声会に納入するものとする

研究発表会助成 収支予算書

収入の部			
第1年	5件として	(20,000円×5件)	100,000円
第2年	10件として	(20,000円×10件)	200,000円

例

一般的なリサイタル（収容人員300名程度のものとして）

収入の部			
チケット売上金	1枚2,000円×270枚		540,000円
支出の部			
ホール使用料			150,000円
印刷物	ポスター 100枚		50,000円

チラシ	2,000枚	40,000円
チケット	300枚	30,000円
プログラム	500部	70,000円
招待状	100枚	10,000円
交通費		8,000円
打合せ費		5,000円
手数料		70,000円
計		433,000円

差引本人収益 107,000円

〔すべて横書き〕（『同声会常務理事会議事録』昭和五十七年二月四日）

同声会のマネージメントで

森田澄夫氏のテノールリサイタルを開催

同声会のマネージメント第一号として、四十六年卒の森田澄夫氏のテノールリサイタルが六月十四日から、東京世田谷区の「こまばエミナース」で行われた。

ホールは六〇〇余席の中型だが、しかし当日は森田氏の人気を反映して雨天にもかかわらず立見のお客も出る程の大盛況、歌も森田氏の研鑽のあとが充分にうかがえる立派なリサイタルであった。

（文＝同声会事業部）

同声会の新企画

同声会コンサートサービス

あなたの演奏会を同声会がお（手）伝い致します。

会場の手配、印刷物、入場券配布などコンサート事務は同声会へ。

個人で、あるいはグループで演奏会を計画している方はありませんか！

どこかのマネージャーに事務をたのみたいが、行ったことがないので、何んとなく気が重くて……と言う方はありませんか！

どう言う会場が良いのか！ 印刷物はどうすれば安くできるのか！
自分でプレイガイドを回すのも面倒だしとお考えの方はありませんか！

招待状はどなたに送れば良いのか！ 先輩、後輩に連絡したいが自分には時間もないし……とお困りの方はありませんか！

そう言う方は同声会へお出ください。

同声会があなたの音楽事務をお引受けいたします。

▽明朗会計＝演奏会に掛った費用を領収証をつけて決算報告いたします。安心しておまかせ下さい。

▽手数料は＝頂きますが、ただし同声会へのサービスを兼ねていきますので安く済みます。

▽ご一報次第＝同声会室でお目に掛って相談いたしましょう。コンサート時間、規模、内容、印刷物などについてまず相談いたしましょう。

同声会のコンサートサービスは、演奏会に必要なあらゆる事務をお引受けし、演奏者が安心して練習に専念できるよう計います。これからの演奏会は、まず一度同声会へご相談ください。

〔同声会会報〕第三二四号 昭和五十七年七月 一六～一七頁

同声会助成による演奏会一覧

昭和五十七年

七月十日

森田澄夫テノールリサイタル（こまばエミナース）

八月二十四日

林廣子・長谷川敏ジョイントリサイタル（石橋メモリアルホール）

同五十八年

六月二十五日

浦田健次郎研究発表会（タワーホール）

同五十九年

六月十九日

第十七回「環」定期演奏会（簡易保険ホール）

六月二十三日

唐木暁美ソプラノリサイタル（こまばエミナース）

十一月三十日

原田とみ子・藤原寿子ジョイントリサイタル（武蔵野文化会館ホール）

同六十年

一月十二日

李凡子ピアノリサイタル（イイノホール）

十二月十五日

小林睦子ロマン派室内楽の夕べ（音楽の友ホール）

同六十一年

六月十二日

松嶋和子ソプラノリサイタル（石橋メモリアルホール）

七月十九日

庭田紀子ソプラノリサイタル（第一生命ホール）

同六十二年

一月十日

小林聡作品発表会（バリオホール）

四月二十四日

キャトル・ロゾーサクソフォンアンサンブル第八回演奏会（東京文化会館小ホール）

六月五日

蔵田雅之テノールリサイタル（草月ホール）

九月二十一日

清水寛子（V）田辺久美（P）ジョイントリサイタル（バリオホール）

九月二十三日

滝順子オルガンリサイタル（武蔵野市民文化会館小ホール）

〔昭和五十七・五十八年度〕第四特別会計 研究発表決算書（三件分）

収入の部		支出の部	
入場券売上げ金	一、四五六、五〇〇 二二三、〇〇〇	会場関係費	五三七、四〇〇
入場券売上げ金		印刷費	七二五、〇〇〇
雑収入		宣伝費	七〇、〇〇〇
前期繰越金額	六〇、〇〇〇	郵便費	二〇、〇〇〇
入場券売上げ	一、三五八、〇〇〇	人件費	二四、六〇〇
プログラム売上げ	一〇〇、〇〇〇	通信費	一五、〇〇〇
雑収入	一、七五八、三〇〇 六二八	打合せ会費	二二、〇〇〇
合 計	一、六七九、五〇〇	録音料	六、〇〇〇
小 計	一、六七九、五〇〇	入場券販売手数料	二、五〇〇
合 計	一、六七九、五〇〇	事務手数料	一五、〇〇〇
小 計	一、六七九、五〇〇	その他	二〇、〇〇〇
合 計	一、六七九、五〇〇	次期繰越金	六〇、〇〇〇
小 計	一、六七九、五〇〇	合 計	一、六七九、五〇〇

（同声会会報」第三二八号 二六頁）

〔昭和五十九年度〕第四特別会計 研究発表決算書

収入の部		支出の部	
前期繰越金額	六〇、〇〇〇	会場関係費	一、〇八六、〇〇〇
入場券売上げ	一、三五八、〇〇〇	印刷費	一、〇四五、五〇〇
プログラム売上げ	一〇〇、〇〇〇	宣伝費	六〇、〇〇〇
雑収入	一、七五八、三〇〇 六二八	郵便費	四二八、五五〇
合 計	一、六七九、五〇〇	人件費	九一、九〇〇
小 計	一、六七九、五〇〇	通信費	一六、八〇〇
合 計	一、六七九、五〇〇	打合せ会費	一二、八〇〇
小 計	一、六七九、五〇〇	録音料	
合 計	一、六七九、五〇〇	入場券販売手数料	
小 計	一、六七九、五〇〇	事務手数料	
合 計	一、六七九、五〇〇	その他	
小 計	一、六七九、五〇〇	次期繰越金	
合 計	一、六七九、五〇〇	合 計	
小 計	一、六七九、五〇〇	合 計	

〔昭和六十年度〕研究発表助成

収入の部		支出の部	
入場券売上げ金	三、二七六、九二八	交通費	四〇、〇〇〇
入場券売上げ金		入場券販売手数料	九、五〇〇
雑収入		録音料	一四、三〇〇
前期繰越金額	一四〇、六二八	事務手数料	三二〇、〇〇〇
入場券売上げ	五八二、〇〇〇	その他	一〇、九五〇
プログラム売上げ	七四、二六〇	合 計	三、一三六、三〇〇
雑収入	三九二	次期繰越金	一四〇、六二八
合 計	七九七、二八〇	合 計	三、二七六、九二八
小 計	七九七、二八〇	小 計	三、二七六、九二八
合 計	七九七、二八〇	合 計	三、二七六、九二八
小 計	七九七、二八〇	小 計	三、二七六、九二八

（同声会会報」第三三〇号 一六頁）

収入の部		支出の部	
前期繰越金額	一四〇、六二八	会場関係費	二四三、二〇〇
入場券売上げ	五八二、〇〇〇	印刷費	二三五、〇〇〇
プログラム売上げ	七四、二六〇	宣伝費	六三、三〇〇
雑収入	三九二	郵便費	三、〇〇〇
合 計	七九七、二八〇	人件費	二、一〇〇
小 計	七九七、二八〇	通信費	六、〇〇〇
合 計	七九七、二八〇	交通費	八二、一六〇
小 計	七九七、二八〇	その他	一、五〇〇
合 計	七九七、二八〇	立替金	五五、〇〇〇
小 計	七九七、二八〇	合 計	六九一、二六〇
合 計	七九七、二八〇	合 計	六九一、二六〇
小 計	七九七、二八〇	合 計	六九一、二六〇

（同声会会報」第三三二号 一八頁）

〔昭和六十一年度〕第四特別会計 研究発表会

収入の部		支出の部	
前期繰越金	一〇六、〇二〇	会 場 費	六七九、三五〇
入場券売上げ	一、〇七一、〇〇〇	印 刷 費	五五一、六〇〇
入 金	七三二、七六〇	宣 伝 費	一〇七、七七〇
立替金返済	五五、〇〇〇	人 件 費	一六、五〇〇
の62・2・31までの銀行利息	一、一八三	通 信 費	二五、〇四〇
小 計	一、九六五、九六三	交 通 費	一八、二〇〇
合 計	一、九六五、九六三	雑 費	二四〇、三〇〇
次期繰越金	二二二、二〇三	手数料	五、〇〇〇
合 計	一、九六五、九六三	小 計	一、七四三、七六〇

〔『同声会会報』第三三三・三三四合併号 二八頁〕

第四特別会計 会員研究発表会 収入の部

費 目	予 算 額	決 算 額	増 減
入場券売上げ	一、七六五、〇〇〇	一、七七四、一七〇	九、一七〇
プログラム売上げ	二〇、〇〇〇	〇	二〇、〇〇〇
受取広告料	二〇、〇〇〇	〇	二〇、〇〇〇
雑 収 入	一、一〇〇、〇〇〇	四九六	△一、一〇〇、〇〇〇
小 計	二、九〇五、〇〇〇	一、七七四、六六六	△一、一三〇、三三四
前期繰越金	二二二、二〇三	二二二、二〇三	〇
合 計	三、一二七、二〇三	一、九九六、八六九	△一、一三〇、三三四

△印 収入減

支出の部

費 目	予 算 額	決 算 額	増 減
会 場 費	一、〇〇〇、〇〇〇	四四八、一八〇	五五一、八二〇
印 刷 費	九六〇、〇〇〇	四八三、六〇〇	四七六、四〇〇
宣 伝 費	二五〇、〇〇〇	二一四、一〇〇	三五、九〇〇
通 信 費	五五、〇〇〇	二一、三〇〇	三三、七〇〇
人 件 費	一七〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一三九、五〇〇
録 音 費	二〇、〇〇〇	四一〇、三二〇	二〇、〇〇〇
手 料	四二〇、〇〇〇	六四、九五〇	九六八〇
音 楽 著 作 権	三〇、〇〇〇	二一、二二〇	八、七八〇
その他(雑費)	〇	三〇二、六九九	△ 三〇二、六九九
第一特別会計へ振込	〇	一、九九六、三六九	九〇八、一三一
合 計	二、九〇五、〇〇〇	一、九九六、三六九	△印 支出増

〔『同声会会報』第三三五号 一八頁〕

(四) 邦楽講習会

昭和五十八年度から、小・中・高校音楽教員を対象とする実技研修として始められた。講習会の主旨および概要に関する資料として事業計画書、第一回講習会(昭和五十九年二月十八・十九日)の募集要項、新聞広告記事、第一回・第二回の収支決算書を掲載する。

昭和五十八年度

同声会主催邦楽講習会

事業計画書

1. 邦楽講習会の目的

小中高校において、邦楽を指導している(邦楽が専門でない)